

# シロマダラ

*Dinodon orientale* (Hilgendorf)

有鱗目ナミヘビ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

なし

## 選定理由

爬虫類食のヘビで生息個体数が本来少ない種だが、本種の存在はその地域の生物多様性がかなり高く保たれていることを示す指標性がある。本県内での分布記録が少なく、開発による自然環境悪化で生息可能地の減少が進んでいる。

## 形態

成体でも全長30～70cmほどの小さなヘビ。背面は淡褐色で50～60個の黒褐色の横斑が目立つ。成長にともなう斑紋の変化はあまりないが、幼蛇は背面の色が淡く白っぽいので黒褐色斑とのコントラストが成蛇よりも大きい。ただアオダイショウの幼蛇を本種と誤認することがあるので注意が必要である。アオダイショウはひとみが円形だが、本種のひとみは縦楕円形であることが判別の一つのポイントになる。

## 国内分布

北海道、本州、四国、九州や一部の離島。日本列島の古い固有種と考えられている。

## 県内分布

加賀地方から奥能登まで散発的に記録がある。白山でも標高2300mあたりでの記録がある。

## 生態

マダラヘビ類ではもっとも北に分布する種。物陰にひそむ性質が強く、夜行性である。普通はもっぱら爬虫類食でトカゲや小型のヘビを餌にしている。人に出会って逃げられなくなると威嚇姿勢をとり、かみつ়ことがあるが小さなヘビなのでたいしたことはない。

## 生息地の条件

不明であるが、餌になる爬虫類が生息できる自然環境のすぐれた場所が必要と思われる。

## 生存の危機

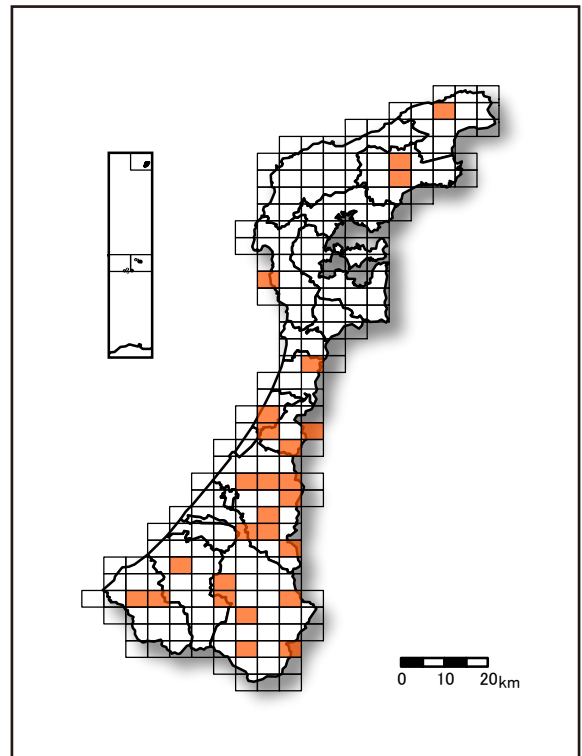
餌となる動物が開発によって減少する傾向が著しいので、生息域・生息数低下の進行が懸念される。  
(A)

## 参考文献

千石正一(編) 1979. 原色/両生・爬虫類. p. 68. 家の光協会.  
戸田光彦 1992. 金沢大学理学部付属植物園年報(15): 17-23.  
鳥羽通久 1996. 日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類. p. 91-92, 99. 平凡社.



写真提供者: 徳本洋



県内の分布